

[生涯学習]課 行 政 経 営 計 画 書 (総 括 表)

■事務事業の総括

予算科目 款-項-目 (事業)	事務事業名
	(生涯学習課)
10-5-1-(3)	家庭教育推進事業
10-5-1-(4)	生涯学習活動推進事業
10-5-1-(5)	生涯学習講座事業
10-5-2-(3)	中央公民館管理事業
10-5-2-(4)	町民会館管理事業
10-6-1-(3)	社会体育振興事業
10-6-2-(3)	温水プール管理事業
10-6-2-(4)	グラウンド等管理事業
10-6-2-(5)	野外活動施設管理事業
	(歴史民俗資料館)
10-5-4-(3)	文化財保護事業
10-5-4-(4)	歴史民俗資料館運営事業
	歴史文化教育事業

令和5年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯学習課	予算科目 款-項-目(事業)	10-5-1-(3)
事業名	家庭教育推進事業		

■基礎情報

目的	将来を担う子どもたちの健全育成は、学校・家庭・地域及び子どもに関する関係機関が連携し、すべての教育の基である家庭教育の充実を図り発展させること。		
事務内容	・家庭教育講座 ※小学生以上を対象にした講座や親子を対象にした自然体験教室等を開催する。	・青少年問題協議会 ※会議（年1回） 啓発活動（年1回）	
現在における経過又は課題	昨今の社会構造の変化に伴う子育て家庭の孤立等の要因により、家庭内での問題が取り上げられている。その為、学校、家庭、地域が連携して、自然体験や親子ふれあいの場づくりに務め、家庭や地域が共に子育てに参加し、その教育力を高めることが必要である。 今後の課題点として、父親と子どもが参加できる事業を昨年度に引き続き検討が必要と考えている。 また、青少年を取り巻く状況については、青少年問題協議会を年1回開催し、町内ショッピングセンター店舗にて啓発活動を実施している。		
令和5年度の目標又は改善策	親子講座や親子がふれあいながら、ともに学習できる機会の提供など充実を図る。 教室に参加した方にアンケートを実施しながら、新たなニーズをつかんでいく。 事業や開催時期などが重複しないよう、他の部局と情報を共有しながら連携を密にする。 令和4年度において、NPO登録団体の活動（父子料理教室）が実施できていないため、団体と連携を図りながら、事業の展開を図っていきたいと考える。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系		基本目標	第 1 章	次代を担う子ども・若者の育成			
		基本政策	第 3 節	青少年の育成			
成果 指標	家庭教育指導など青少年の健全育成への満足度						
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値
63. 6%	65. 1%	66. 0%	－	－	－	－	70. 0%

成果 指標	学校と地域や家庭との連携の満足度						
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値
62.4%	65.6%	65.0%	－	－	－	－	68.0%

■3年間の目標

目 標						
項 目（単位）		R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	中高生等の居場所づくりの推進・啓発を行う
R7 年度	青少年の社会活動への参加機会の創出を行う

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
7	日間賀島自然体験教室（実施できなかった）
8	青少年問題協議会の開催
9	親子自然体験教室（阿智村）
11	親子ふれあい事業 親子料理教室（実施できなかった）
12	
随時	家庭教育講座の受付及び開講

■目標又は改善策に対する取組内容

○家庭教育講座の受付及び事業展開

＜生涯学習のまちづくり実行委員会開催講座＞

- ・「浴衣の着付け教室」（1回 参加人数 4組）
- ・「ドローンを操縦し飛ばしてみよう教室」（各1回 親子の部 14組、一般の部 11名）
- ・「Let's Try! キャンドル」
アロマサシェ（1回 参加人数 17名）
ソイボタニカルキャンドル（1回 参加人数 2名）
ジェルキャンドル（1回 参加人数 2名）
- ・理科おもしろ実験講座
「いろいろなスライムを作ろう！」（1回 参加人数14人）
「回る回る！ブーメラン・くるくるコプター」（1回 参加人数21人）
「重力と浮力 浮沈子を作ろう」（1回 参加人数18人）

- ・ヤマザキマザック工作機械博物館 館内見学&モノづくり体験（1回 参加人数13名）
- ・親子自然体験教室（阿智村）（参加人数 10組26名）

○ふれあいまつり2023

- ・大口中学校PTA 千本釣り（参加人数400人）
- ・大口北小学校PTA 親子かわいい台づくり（参加組数54組）
- ・大口西小学校PTA わなげにチャレンジ（参加人数700人）
- ・大口南小学校PTA おかしすくいおもちゃすくい（参加人数502人）

○青少年問題協議会

青少年問題協議会で巡回パトロール実施（ヨシヅヤ、MEGAドン・キホーテUNY、バロー）
中学校・保護司と連携して、校外巡視時に啓発チラシ・グッズを配布

■評価

令和５年度は、コロナ禍以前に実施していた家庭教育講座を実施できるように検討したが、講師等の調整が進まず、結果として難しかった。日間賀島の自然体験教室においては、実施時期の調整を始め、体験教室の内容において、親子で日間賀島での特徴ある体験の調整ができなかったため、実施を見送った。令和６年度に向けて再度調整していきたい。新たな試みとして、阿智村において虫をテーマにした自然体験教室を行うことができた。（一社）阿智村全村博物館協会による虫の種類説明や図鑑を用いて親子で調べたりするなど親子のふれあいができた。

青少年問題協議会においては、令和４年度に引き続き、会議において江南警察署による地域の状況を聞き、令和５年８月２５日に巡回パトロールを行うことができた。

令和5年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯学習課	予算科目 款-項-目（事業）	10-5-1-(4)
事業名	生涯学習活動推進事業		

■基礎情報

目的	人々が自らの意思で、生涯学習活動を進めることにより、大口町生涯学習基本構想に基づく「生涯学習のまちづくり」を目指すこと。		
事務内容	・文化振興（芸能文化事業） ・地域学校協働本部事業	・文化協会支援 ・二十歳の集い実行委員会支援 ・リフレッシュリゾート施設利用助成 ・少年少女発明クラブ支援	
現在における経過又は課題	生涯学習活動については、大口町生涯学習基本構想に基づき、住民一人ひとりが生涯学習に取り組む機会が得られるよう、様々な事業を展開している。 文化協会及び各種団体については、コロナ禍で活動が縮小傾向となっているため、活動ができるように支援していく。 地域学校協働本部事業については、安定した運営を引き続き継続していけるよう、体制を維持していくことが必要である。		
令和5年度の目標又は改善策	開かれた学校づくりの一環として、地域住民が学校支援ボランティアとして協力ができるよう、地域学校協働本部は学校が困っていることを把握し、その問題に対応できる学校支援ボランティアを派遣できるように体制を整えていく。また、ボランティアから「こんな支援ができる」などの提案を聞きながら学校活動を支えていく。 文化協会及び各種団体については、令和4年度少しずつ活動が再開されたものの、イベントや教室が令和4年度は少なかったため相談に乗りながら事業を進めていく。 リフレッシュリゾート施設利用助成については、引き続き、PRをしながら利用を促していく。 少年少女発明クラブについては、引き続き体制の支援を図っていく。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系		基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
		基本政策	第 1 節	生涯学習の推進				
成果 指標	学校支援地域本部事業ボランティア登録数							
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値	
97 人	79 人	86 人	80 人	79 人	87 人	100 人	100 人	

■3年間の目標

目 標						
項 目（単位）		R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	生涯学習基本構想の見直し
R7 年度	生涯学習を通じた生きがいつくりの創出及び啓発を行う

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	大口町文化協会補助金交付決定 事業の展開支援（4月～3月） 生涯学習のまちづくり事業委託契約 町NPO団体と協働委託契約を締結
10	芸能文化事業の展開（10月～2月） ・ほほえみコンサート、なんでもマラソンコンサート、大人のピアノ発表会、 おおぐち合唱祭 ダンス&ミュージック（未実施）
11	二十歳の集いの実行委員会立ち上げ 事業の展開（11月～1月）
1	二十歳の集い開催
随	リフレッシュリゾート施設利用申請受付、利用券交付（4月～3月）

■目標又は改善策に対する取組内容

文化協会の事業や地域学校協働本部（学校支援地域本部）事業において、コロナ禍以前の活動が徐々に行えるように各事業を実施した。

○芸能文化事業

ほほえみコンサート（２回） なんでもマラソンコンサート（１回）

大人のピアノ発表会（１回） おおぐち合唱祭（１回）

○二十歳の集い実行委員会支援

二十歳の集い参加者１７７人参加

○文化協会支援

文化部、芸能部合わせて１９団体、２４６人

事業実績（作品展・教室・発表会） ５４事業

○リフレッシュリゾート施設利用助成

助成額１，７８４，５００円

（日間賀島２３４件 昼神温泉２２７件 共済２２件 松江６５件 南三陸１１件

FDA利用４３件）

○地域学校協働本部（学校支援地域本部）事業

ボランティア登録人数 ８７人（Ｒ６．３月末）

・大口中学校（抜粋）

「ふれあい清掃」：生徒と一緒にプランター及び花壇の植替えや除草などを実施（延べ２５回
１４３人）

「図書館サポート」：推薦図書のポップ作り、本のカバー貼り、本の清掃などの作業を実施（延
べ２０回 １５６人）

「特別支援学級授業サポート」：ボランティアと学校との打合せ会により授業分担を決め実施（延
べ２０３回 ２２６人）

小学校支援

・大口南小学校 環境サポート（延べ２２回２１０人）、図書館サポート（延べ１６回６５人）など
を実施。

・大口北小学校 環境サポート（延べ３８回２１３人）、図書館サポート（延べ３２回１５４人）な
どを実施。

・大口西小学校 環境サポート（延べ２３回１１５人）、図書館サポート（延べ１４回１０７人）な
どを実施。

■評価

- 文化協会においては、自主活動として文化協会４５周年の記念事業を行った。会長を始め活性化ある活動を行うことができた。また、下部団体については、慰問施設や発表会の活動を行った。
- 学校支援地域本部については、学校でのボランティア活動を大口町のホームページを用いてPRし、活動内容について、多くの人に知ってもらうことに努めた。ボランティア登録者が引き続き、今後も学校支援活動のやりがいとなるように支援を継続していく。
- 芸能文化事業においては、ほほえみコンサート、なんでもマラソンコンサート、大人のピアノ発表会、おおぐち合唱祭を実施することができ、多くの方に音楽にふれあう場を提供できた。
- ダンス&ミュージックは、企画・運営の調整を行ったが、参加者が他のイベントに出場する機会も多くなり、参加者が少なく、内容等を再検討するため、見送った。
- リフレッシュリゾート施設利用助成については、令和４年度から２４件増加している。引き続き、PRをしながら利用を促せればと考える。

令和5年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯学習課	予算科目 款-項-目（事業）	10-5-1-(5)
事業名	生涯学習講座事業		

■基礎情報

目的	町民一人ひとりが、変化の多い社会の中で「明るく、楽しく、豊かに」生きることを願い、様々な分野の各種講座を開設し、個々の教養や技術を習得すること。	
事務内容	・ 定期講座 ※主に教養を深めることや趣味の拡大を目的に随時 1 講座 6 回程度開催する。	・ 旬の講座 ※その季節にあわせて 1 講座 1 回から 3 回程度開催する。
現在における経過又は課題	コロナ前は前期・後期に分けて様々な講座を企画している中で、講座による参加者の数にばらつきが発生していた。しかしながら、行政における講座の役割としてはきっかけづくりが主なものであるため、参加者数にとらわれない様々な講座の紹介としての役割を担えればと考えている。 令和 4 年度はさくら大学 6 回、来待石彫刻体験講座のみ開催した。講座の実施方法について検討する。	
令和 5 年度の目標又は改善策	講座内容について、企画する上で、旬な講座も取り入れながら実践に役立つ講座や地域の住民が講師となり活躍できる講座の開設を中心に、参加人数にとらわれず、様々な方面から情報を模索し、きっかけづくりとなる講座を考える。 また、さくら大学では 1 2 回実施、博物館などの見学を新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、再開を考える。	

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系		基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
		基本政策	第 1 節	生涯学習の推進				
成果 指標	生涯学習講座のメニューの数の満足度							
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値	
59.5%	63.3%	－	－	－	－	－	65.0%	

■3年間の目標

目 標						
項 目（単位）		R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	住民ニーズに応じた生涯学習講座の開設及び講座から派生した地域活動などの支援を行う。
R7 年度	住民ニーズに応じた生涯学習講座の開設及び講座から派生した地域活動などの支援を行う。

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
毎月	さくら大学
12月	博物館見学（家庭教育推進事業として実施）
随時	生涯学習講座を受付及び受講を開始。

■目標又は改善策に対する取組内容

○姉妹都市提携講座

「彫刻体験「来待石」」（1回 参加人数4人）

○俳句をつくってみよう（1回 参加人数4人）

○高齢者教室～さくら大学～（12回、延べ参加人数255人）

■評価

生涯学習基本構想のキーワード「学びを創る」「学びに集う」「学びをつなぐ」という考え方のもと、「誰でも、いつでも、気軽に学べる」をモットーに、幅広い年齢層の方を対象に様々な学習機会の提供を目指した。

受付方法については、窓口での受付の他に令和4年度は「往復はがきを使った受付方法」をおこなったが、令和5年度においては、窓口での受付とオンラインを用いた受付を実施し、いつでも受付ができる受付方法を実施した。これによって、平日しか受付ができない状況は解消された。

生涯学習のきっかけづくりとして、今後も色々な講座を企画していきたい。

令和5年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯学習課	予算科目 款-項-目（事業）	10-5-2-(3)
事業名	中央公民館管理事業		

■基礎情報

目的	町民が安全で快適に学習できるよう、施設を整備し、町民が気楽に集まり教養や技術を習得することができると共に「明るく、楽しく、豊かに」生きることの一助とする。		
事務内容	・ 施設の利用者対応 ・ 設備の維持管理 ※外注分は協議・契約・履行確認		
現在における経過又は課題	施設内の老朽箇所が散見されるため、随時対応していく。特に配管設備や電気設備について、急な不具合が発生する事案が度々あり、その都度修繕対応が必要である。 また、周辺の樹木の剪定・伐採など、外観美化に努めていく。		
令和5年度の目標又は改善策	随時発生する不具合において、その都度迅速に対応していく。また、光熱水費について、経済的な面、環境的な面から節制を心掛けていく。 施設利用については、新型コロナウイルス等の感染予防のため、利用者に対して換気や手洗いの励行など注意喚起に努めながら、利用の仕方を考えていく必要がある。 修繕については、集会室2階観客席上部の梁の修繕を実施する。 工事については、屋上の煙突から機械室への雨水侵入防止の工事や中央公民館竣工以後未更新である各階の階段部にある防火シャッターの更新工事を実施する。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第4章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
	基本政策	第1節	生涯学習の推進				
成果指標							
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値

■3年間の目標

目 標	施設の突発的な不具合に際し、優先度を考慮しながら迅速に対応する。					
	項　目（単位）	R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	光熱水費の節減を図る
R7 年度	施設の効率的な運用の検証を行う

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	年間を通して行う保守点検等の契約締結 随時、履行確認をしていく。
9	集会室2階観客席上部梁修繕 煙突改修工事
11	防火シャッター更新工事
	* 突発的な施設の不具合等への対応に努めながら、健全な施設運営を図っていく。

■目標又は改善策に対する取組内容

修繕（主なもの）

8月	中央公民館自動扉修繕	616,000円
12月	集会室観客席上部化粧梁クラック修繕	1,531,200円

工事

11月	生涯学習課事務室空調取替工事費	638,000円
12月	中央公民館煙突改修工事費	701,800円
2月	防火シャッター更新工事（令和6年度繰越明許）	8,305,000円

■評価

施設老朽化のため突発的な不具合や故障については、都度修繕しながら施設を維持した。

なお、集会室観客席上部化粧梁クラック修繕については、観客席の上部の屋根の梁からコンクリート片が落ちてきたため修繕を行ったが、修繕を行った際に、大きなコンクリートに亀裂が一か所に見つかり、急遽、梁に頼付ける修繕を行い補強した。

電気、ガスなどの光熱水費については、施設利用者の理解を得ながら節電に努めた。

令和5年度の工事として、大雨が降ると中央公民館の煙突から機械室に雨水が入っていたため改修を行い、煙突に傘を付けることで機械室に雨水が入ることが防ぐことができた。また生涯学習課事務室の空調が10月に壊れたため、補正予算対応で工事を行った。同じ時期に設置した空調が教育長室や学校教育課事務所に設置されているため、令和6年度に空調機器の入替を計画する。

防火シャッター更新工事については、点検後の実施となり、施設のサイズに合わせた製品の製造に時間を要し、令和6年度への繰越明許として実施する。

令和5年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯学習課	予算科目 款-項-目（事業）	10-5-2-(4)
事業名	町民会館管理事業		

■基礎情報

目的	町民が安全で快適に学習できるよう、施設を整備し、町民が学習成果の発表を行う場や講習等の教養を習得すると共に「明るく、楽しく、豊かに」生きることの一助とする。		
事務内容	・ 支払処理 ・ 消耗品等の補充 ・ 除草等清掃作業		
現在における経過又は課題	開館からすでに30年以上経過しており、施設の老朽化や非構造物の耐震診断の結果、屋根の雨漏り箇所や天井材に不具合が確認されていることから、平成30年度に大規模改修工事を行った。 令和2年度には2階ホールの舞台吊り物装置の一部を改修し、経年劣化による危険性に対して万全を期した。 調光盤やケーブルなどの舞台照明機器については、耐用年数の経過や経年劣化により機器更新の必要がある。 町民会館駐車場について、経年劣化により舗装面が傷んでいるため、改修工事の必要がある。		
令和5年度の目標又は改善策	施設の効果的な運用を図るとともに、修理箇所が発生した場合はその都度対応するなどして、適切な維持管理を実施していく。 舞台照明機器のうち、経年劣化による火災が危惧される舞台照明用ボーダーケーブルの取替工事を実施する。 施設の利用については、新型コロナウイルス等感染予防のため、利用者に対し注意喚起を努めながら、都度利用の仕方を考えていく必要がある。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第4章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
	基本政策	第1節	生涯学習の推進				
成果指標							
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値

■3年間の目標

目 標	施設の突発的な不具合に際し、優先度を考慮しながら迅速に対応する。					
	項　目（単位）	R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	町民会館駐車場の舗装工事
R7 年度	施設の効率的な運用の検証を行う

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	年間を通して行う保守点検等の契約締結 随時、履行確認をしていく。
2	エレベータ改修工事
	* 突発的な施設の不具合等への対応に努めながら、健全な施設運営を図っていく。

■目標又は改善策に対する取組内容

修繕（主なもの）

6月 自動扉（1階西 2階）修繕 281,270円
（自動扉の開閉を行うための駆動・従動プーリーの亀裂に伴う修繕）

工事

11月から3月 ホール舞台照明用ボーダーケーブル取替工事費 4,375,800円
（昇降式照明器具の給電ケーブルの経年劣化による取替）

■評価

施設が建設から30年以上経過しており、老朽化のため突発的な不具合や故障については、都度修繕しながら施設を維持した。それに伴い、建設当初から配線していた舞台照明用ボーダーケーブルの取替工事を行った。建設当初からまだ使用し続けている発電機や照明機器があるため計画的に部品の入れ替えなどを行っていきたいと考える。

令和5年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯学習課	予算科目 款-項-目（事業）	10-6-1-(3)
事業名	社会体育振興事業		

■基礎情報

目的	町民が暮らしの中に「スポーツ」を取り入れ「健康」と「元気」になれるよう、「町民と結びついた社会体育」をスローガンに各種講習会や大会などを開催し、町民にスポーツ参加の機会と普及に努めること。		
事務内容	・スポーツ教室開催 ・スポーツ大会開催 ・愛知駅伝記録会 ・丹羽高等学校体育施設開放運営委員会		・地区別ソフトボール大会 ・町民体育祭 ・桜並木健康ジョギング ・スポーツ協会支援 ・スポーツ少年団支援
現在における経過又は課題	若い世代から高齢者まで、生涯にわたって健康・体力づくりに取り組めるよう、多様なスポーツに親しむ機会の充実に努めていく。 子ども向けのスポーツ事業については、統合型地域スポーツクラブであるNPO法人ウィル大ロススポーツクラブと役割確認しながら、引き続き事業を継続していく。 イベントについては、長年実施しているため、その時々にあった内容を取り入れながら実施していく。 団体支援については、団体のみが参加する活動だけではなく、地域の人たちも参加できる形で地域貢献の場を設けていく必要がある。		
令和5年度の目標又は改善策	普段仕事や子育て等でなかなかスポーツにふれあう機会の少ない世代に対し、生涯スポーツのきっかけとなるようなアプローチを実施していく。 教室やイベントにおいて、新型コロナウイルス感染拡大予防に努めながら、事業を実施していく。町民体育祭は昨年度中止し、個人参加型のスポーツチャレンジを実施したため、令和5年度の実施方法を各区長や実行委員の意見を聞きながら検討する。 地区別ソフトボールについては、過去に中止となっており、また女子チームの参加が少ないため参加方法を見直しながら検討する必要がある。 スポーツ協会及びスポーツ少年団については、自立した運営が図れるよう引き続き支援を行っていく。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系		基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
		基本政策	第 1 節	生涯学習の推進				
成果 指標	スポーツ活動、教室のメニューや数の満足度							
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値	
58.6%	54.6%	60.0%	－	－	－	－	70.0%	

成果指標	町が主催したスポーツ大会・教室の参加人数						
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値
6,550 人	5,500 人	——人	——人	410 人	767 人	6,950 人	7,000 人

成果指標	スポーツ少年団指導者有資格者（指導者に対する割合）						
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値
36.0%	96.0%	71.4%	93.3%	97.0%	100.0%	100.0%	100.0%

成果指標	スポーツ施設利用者数						
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値
500,360 人	544,289 人	473,726 人	513,241 人	563,920 人	564,575 人	565,000 人	570,000 人

■3年間の目標

目 標						
項 目（単位）		R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■ 2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	体を動かすきっかけづくりとなる生涯スポーツの啓発をする
R7 年度	スポーツを通じた交流・ネットワークの充実を図る

■ 作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	各団体補助金交付決定 事業の展開支援（4月～3月） 4 月区長会
5	町民体育祭実行委員会 愛知駅伝記録会（5 月、6 月、7 月、9 月）
6	6 月区長会
9	地区別ソフトボール大会開催
10	町民体育祭開催
12	愛知駅伝参加
2	桜並木健康ジョギング受付
3	桜並木健康ジョギング開催
	・ スポーツ推進委員定例会は毎月 1 回開催

■目標又は改善策に対する取組内容

- 講座・教室
 - タグラグビー教室（１回 参加人数人１７人）
 - モルック教室（１回 ２８人）
- スポーツ推進委員活動
 - 委員会（委員会１１回開催、東海四県プロジェクト、スポーツ教室、町民体育祭、桜並木健康ジョギングなどを運営）
- スポーツ大会開催
 - 地区別ソフトボール大会（９月３日、１０日開催）

 - 地区別対抗グラウンドゴルフ大会（１１月２５日開催） 参加チーム２２チーム

 - 町民体育祭 →雨天による中止
 - 愛知万博メモリアル第１５回愛知県市町村対抗駅伝競走大会（２０人参加）
 - 桜並木健康ジョギング（参加者数３５８人：５ｋｍ７４人、３ｋｍ１６６人、１．８ｋｍ１１８人参加）
- スポーツ協会・スポーツ少年団事業
 - スポーツ協会（９団体）
 - 春季町民総合体育大会
 - 大口町・扶桑町親善体育大会
 - 秋季町民総合体育大会
 - グラウンドゴルフ大会などを実施
 - スポーツ少年団（４団体）
 - 全国スポーツ少年団軟式野球交流大会地区大会
 - 体カテスト
 - 愛知県スポーツ少年大会西尾張支部大会などを実施

■評価

- 地区別ソフトボール大会及び地区別グラウンドゴルフ大会については、令和４年度までコロナ禍で実施を中止していたが、令和５年度は参加チームを制限し、区の協力を得ながら実施することができた。地区別ソフトボールの女子の部については、地区で２チームできないことを事前に把握して個人で参加できるように広報で呼びかけをしたが、チームを作るまでは至らず女子の部は実施することができなかったため、令和６年度の課題となる。
- 町民体育祭については、区の意見を聞き、実行委員会で検討した結果、児童生徒リレーなどの競技を除いた綱引きなどの競技に絞り、半日での実施する町民体育祭を検討した。当日は雨天のため実施することができなかったため、令和６年度どのように実施していくか実行委員会で再度検討し、地区の交流ができる場を残していきたい。
- スポーツ推進委員活動について、タグラグビー教室を行いつつ、新たにモルック体験教室を実施した。モルック体験教室では、年齢問わず参加でき、ルールもわかりやすいため、小さな子どもから高齢者まで多世代の参加があった。他の市町村でも注目を集めているスポーツであるため、継続を考える。
- スポーツ協会及びスポーツ少年団の運営については、各団との連携を密にとり、円滑な事業となるよう尽力した。今後も各団の自主自立による運営のため、助言などを行っていく。

令和5年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯学習課	予算科目 款-項-目（事業）	10-6-2-(3)
事業名	温水プール管理事業		

■基礎情報

目的	町民が安全で快適にスポーツを楽しむことができるような施設の一つとして、一年を通して活用できる温水プールを整備することで町民の体力づくり、健康づくりに努め、スポーツによる明るいまちづくりを推進する。	
事務内容	・ 指定管理業者による施設の確認 ・ 指定管理の範囲外の工事等について、検討し実施。	
現在における経過又は課題	施設の管理運営は平成２２年度から指定管理者に委ねられており、引き続き令和２年度から令和６年度まで５年間の指定管理協定をウィル大口スポーツクラブと締結している。 施設自体は、開場からすでに３０年以上が経過しており、随時修繕等を実施していく必要がある。 令和３年８月にオークマ株式会社とネーミングライツ契約を締結し、大口町総合運動場は「オークマ温水プール」と命名された。契約期間は令和３年１０月１日から令和８年９月３０日の５年間である。	
令和５年度の目標又は改善策	施設の管理運営が指定管理者に委ねられていることから、施設の適正な運営が行われているかの指導・助言を実施していく。また、指定管理者との連携を密にするため、定期的な連絡会議を引き続き実施していく。 工事については、３階機械室の雨漏りが発生しているため屋上の防水シートの改修を実施する。その他の修繕については、協議のうえ、施設な改修が必要な個所について把握し、今後の改修に向けて準備を進めていく。 来年度は指定管理者との契約５年目となるため、次期５年間の指定管理について検討していく必要がある。	

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系		基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
		基本政策	第 1 節	生涯学習の推進				
成果 指標	スポーツ活動、教室のメニューや数の満足度							
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値	
58.6%	54.6%	60.0%	－	－	－	－	70.0%	

■3年間の目標

目 標						
項 目（単位）		R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	温水プール施設の長寿命化に対する検証を行う
R7 年度	温水プール施設の長寿命化に対策の計画作成

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	指定管理年度協定締結
9	温水プール屋上防水工事（実施していない）
	年間を通して施設の管理運営が適切に行われているか、指定管理者から基本四半期ごとに報告を受けて、現在の課題に取り組んでいく。 大規模な修繕が発生した場合は、指定管理者と協議しながら対応していく。

■目標又は改善策に対する取組内容

温水プールのネーミングライツ契約 550,000円（令和5年4月～令和6年3月分）
（契約期間 令和3年10月1日～令和8年9月30日 契約金額 2,750,000円）
愛称：オークマ温水プール 愛称の表示場所：プール施設（正面、東側）、案内板

指定管理者であるウィル大口スポーツクラブと定期的に情報共有会議を実施
（指定管理施設の修繕計画や利用人数などの状況報告など）

■評価

- 施設管理・運営について、指定管理者であるウィル大口スポーツクラブと定期的に打合せを行い、情報共有しながら行うことができた。打合せの中で、施設の老朽化に伴う設備修繕が多く、竣工から40年経過し、大規模改修工事から20年経過しているため、今後温水プールの在り方をどのようにするか検討する必要がある。
※令和6年度に施設設備や躯体や始めとする調査を行う方向性としたため、屋上防水工事は見送った。

令和5年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯学習課	予算科目 款-項-目（事業）	10-6-2-(4)
事業名	グラウンド等管理事業		

■基礎情報

目的	町民が安全で快適にスポーツを楽しむことができるよう、また、多種多様なスポーツ種目の要望に応えられるように施設を整備し、町民の体力づくり、健康づくりに努め、スポーツによる明るいまちづくりを推進する。		
事務内容	・ 指定管理委託した施設の町負担分支払		
現在における経過又は課題	平成27年度からすべてのスポーツ施設を指定管理者制度に移行したため、指定管理者と調整しながら施設の維持にあたっている。 令和2年度には、夜間のスポーツ施設の利用を可能にするため、わかしゃち国体記念運動公園に照明設備を設置した。また、総合グラウンドのゲートボール場1面を駐車場に改修し、周辺施設利用の際の駐車台数確保に努めた。 引き続き、全ての施設がより適正に管理・運営されるような施設管理の方法を検討していく。 令和3年8月にオークマ株式会社とネーミングライツ契約を締結し、大口町総合運動場は「オークマグラウンド」と命名された。契約期間は令和3年10月1日から令和8年9月30日の5年間である。		
令和5年度の目標又は改善策	管理運営が指定管理者に委ねられている施設について、指定管理者が適切な管理に努めるよう指導・助言をしていく。また、経費抑制や適正な管理ができるよう協議を続ける。 施設の利用については、新型コロナウイルス感染拡大予防に努めながら、利用の仕方を指定管理者と協議しながら考えていく必要がある。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系		基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
		基本政策	第 1 節	生涯学習の推進				
成果 指標	スポーツ活動、教室のメニューや数の満足度							
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値	
58.6%	54.6%	60.0%	－	－	－	－	70.0%	

■3年間の目標

目 標						
項 目（単位）		R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	スポーツ施設全般の機能充実を図る
R7 年度	スポーツ施設全般の機能充実を図る

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	指定管理者制度導入施設の年度協定締結 年間を通して施設の管理運営が適切に行われているか、指定管理者の運営を見守っていく。大規模な修繕が発生した場合は、指定管理者と協議しながら対応していく。

■目標又は改善策に対する取組内容

工事

2月 わかしやち国体記念運動公園汚水排水工事 （下水道接続工事）
1,793,000円

総合運動場のネーミングライツ契約 600,000円（令和5年4月～令和6年3月分）
（契約期間 令和3年10月1日～令和8年9月30日 契約金額 3,000,000円）
愛称：オークマグラウンド 愛称の表示場所：正門、管理棟、A面スタンド、案内板

■評価

温水プール同様、グラウンド管理についても指定管理者であるウィル大口スポーツクラブと定期的に打合せを行い、情報共有をしながら施設運営することができた。

工事において、わかしゃち国体記念運動公園の下水道接続工事をおこなった。わかしゃち国体記念運動公園は下水道本管の末端（上流）となり水源が少ないため、定期的に敷地内の配管に詰まりがないか確認を指定管理者と共に行った。

令和5年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯学習課	予算科目 款-項-目（事業）	10-6-2-(5)
事業名	野外活動施設管理事業		

■基礎情報

目的	町民が自然にふれあいながら規律、協調、友愛の精神を養い、心身ともに健全に、また、より豊かな心を養うことを目的とし、安心して利用できる施設管理を目的とする。		
事務内容	・ 設備の維持管理 ※外注分は協議・契約・履行確認		・ 支払処理 ・ 消耗品等の補充
現在における経過又は課題	地元住民の有志グループに日常管理を委託してきたが、大きなトラブル等もなく現在も同じグループに日常管理を委託している。 開場からすでに30年以上経過しており、施設全体の老朽化は否めない。アスレチック施設については経年劣化が目立ってきており、毎年の遊具点検により使用の可否を見極めながら、また、遊具新設についても検討しながら施設運用を図っていく必要がある。		
令和5年度の目標又は改善策	施設の老朽化にしているため、修繕などで対応していくか、点検で撤去推奨判定の遊具については、撤去などの措置を行っていく。 日常管理を委託している地元の有志団体構成員の高齢化しているため、相談しながら継続して管理ができる方法を検討していく。 今後の施設のあり方については、引き続き方向性を検討していく。 施設の利用については、新型コロナウイルス等の感染予防に努めながら、利用の仕方を考えていく必要がある。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系		基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
		基本政策	第 1 節	生涯学習の推進				
成果 指標	スポーツ活動、教室のメニューや数の満足度							
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値	
58.6%	54.6%	60.0%	－	－	－	－	70.0%	

■3年間の目標

目 標						
項 目（単位）		R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	施設の遊具の適切な管理・運用を図る
R7 年度	施設の遊具の適切な管理・運用を図る

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	年間を通して行う保守点検等の契約締結 随時、履行確認をしていく。 * 突発的な施設の不具合等への対応に努めながら、健全な施設運営を図っていく。

■目標又は改善策に対する取組内容

アスレチック遊具の安全点検を年1回実施した。

修繕（主なもの）

12月から3月 ふれあいの森木製遊具修繕 726,000円

■評価

アスレチック遊具の定期点検を年1回実施し、指摘のあった木製アスレチック遊具のロープの張替えや木材の取替などの修繕を行った。

また、敷地内にある空洞化した樹木に蜂が住み着くなどがあったため、専門業者に駆除の委託をした。今後、遊具だけでなく樹木の管理についても検討していく必要がある。

日常管理を委託している団体の構成員が高齢化しており、令和4年度中に清掃回数の変更など委託業務の内容を見直した。令和5年度は、施設内のトイレ清掃、草刈り、施設の開閉錠を請け負ってもらい、今後、無理のない範囲内で管理をお願いしたいと考える。

令和 5 年度 事業別行政経営計画書

所属名	歴史民俗資料館	予算科目 款-項-目(事業)	
事業名	歴史文化教育事業		

■基礎情報

目的	町内の歴史及び文化を、様々な団体と連携しながら次世代へ継承することにより、町民が郷土を愛し、町の魅力として誇りを持てるまちづくりを推進する。		
事務内容	・ 保育園との連携事業 ・ 小中学校における郷土学習 ・ 地域自治組織との連携事業 ・ 町内各種団体との連携事業		
現在における経過又は課題	町内各種団体からの依頼で講演及び現地解説を実施すると、地域（家庭）において郷土の歴史及び文化を次世代へ語り継ぐことが断絶している状況が窺える。 よって、様々な団体と連携し、老若男女問わず郷土の歴史、文化及び現在も遺る多様な文化遺産を次世代へ継承することにより、町民の郷土愛を育み、町の魅力として誇りを持つことができるようなまちづくりを推進していかなければならない。		
令和 5 年度の目標又は改善策	各保育園及び各地域自治組織との連携、町内の小学校 6 年生及び中学校 2 年生を対象とした「松江開府の祖 堀尾吉晴公」をはじめ、他学年においても「ふるさと大口」をテーマとした授業を実施。機会があれば様々な団体と連携し、幅広く展開する。特に一昨年度末に連携して作成した冊子・記録類について、今年度はそれらを活用できるようなイベントを開催する。 また、小中学校の郷土学習での講話や資料提供等、可能な支援を提案し、重点的に連携を推進する。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系		基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
		基本政策	第 1 節	生涯学習の推進				
成果 指標	出前講座・授業開催数							
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値	
20 件	44 件	30 件	36 件	39 件	42 件	60 件	65 件	

■3年間の目標

目 標	子どもの発達段階に応じた郷土学習の推進					
	項 目（単位）	R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	前年度までの実績を振り返り、発達段階に応じた学習プログラムの検討及び実践
R7 年度	実践した学習プログラムを振り返り、改善策を検討して実践

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
	北、西、南保育園連携事業「郷土を愛する心を育む活動」（年間3園合計で14回程度） 小学生を対象とした児童の発達段階に合わせた郷土学習（各学年で実施） 小学校6年生郷土学習「郷土の偉人 堀尾吉晴公」（9月以降実施） 中学校2年生郷土学習「郷土の偉人 堀尾吉晴公」（12月頃実施） 中地域自治組織歴史民俗部会にアドバイザーとして参加 南地域自治組織「南地域の歴史や文化遺産を次世代につなぐ事業」 「おおぐち歴史ガイド」との連携事業 その他、まちづくり団体等、町内の様々な団体とともに連携し事業を展開

■目標又は改善策に対する取組内容

保育園及び小中学校については、昨年度以上に様々な依頼をいただき実施することができた。保育園は南保計5回、西保計6回、北保計5回にわたり「郷土を愛する心を育む活動」を実施し、小中学校は「郷土の偉人 堀尾吉晴公」をはじめ、各種授業の連携を進めた。地域自治組織は、北地域自治組織環境部会に対し、小口城に関する勉強会を2回行った。また、中地域自治組織はアドバイザーの依頼を受け、山姥物語ゆかりの地をめぐるツアーを開催し、南地域自治組織の「南地域まちづくりかわら版」への寄稿を行った。

■評価

保育園及び小中学校は、昨年度以上の依頼をいただき、昨年度以前から続けているものでも、新型コロナウイルスに係る制限の解除や内容の見直し等をした上で実施することができた。これは、より質の高い活動・授業内容となったことで、より子ども達に郷土の理解を深めてもらうきっかけを創出することができた。

来年度も、郷土学習や資料提供等、できうる限りの支援を提案し、連携を深めていきたい。

令和 5 年度 事業別行政経営計画書

所属名	歴史民俗資料館	予算科目 款-項-目(事業)	10-5-4-(3)
事業名	文化財保護事業		

■基礎情報

目的	郷土に遺る貴重な文化遺産の保存及び活用に努め、次世代へ継承する。		
事務内容	・ 指定文化財の保存と活用 ・ 新規に指定可能な文化財の調査 ・ 町の歴史に係る調査及び研究		・ 埋蔵文化財の保護と開発に係る調査 ・ 伝統芸能の継承と普及
現在における経過又は課題	町内に遺る指定文化財及び未指定でも近年急速に失われつつある、郷土の歴史を物語る貴重な文化遺産について、調査を行い、それらを保存及び活用することにより、町民に対して保護意識の醸成を図る。 各地区に伝わる伝統芸能について、近年継続が困難になりつつあり、またコロナ禍により練習及び発表の場が失われている。このため、次世代へ継承し、発表の場を創出する事業を推進する。		
令和 5 年度の目標又は改善策	指定、未指定に関わらず、町内に遺る文化遺産等について、専門家や地域住民の協力を得ながら調査を進め、その成果を町民に還元する。 毎年 4 月及び 10 月に開催する伝統芸能発表会と、大口北小学校で実施している各地区保存会と児童の交流会を開催する。春及び秋の伝統芸能発表会は令和 2 年度以降、開催できていないため、各地区の活動状況を把握しつつ、実施に向けて準備を進める。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系		基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
		基本政策	第 1 節	生涯学習の推進				
成果 指標	所蔵資料点数							
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値	
12,387 点	12,898 点	13,471 点	13,838 点	14,159 点	14,333 点	13,600 点	13,800 点	

■3年間の目標

目 標	多世代が集う憩い広場での新しいイベントの創出					
項 目（単位）		R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	令和5年度に開催した秋の伝統芸能発表会及びそれに付随したイベントの反省点を活かし、イベント全体の精度を上げる。
R7 年度	伝統芸能発表会とともに、地域のイベントとして内容を充実させる。

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
	文化遺産の調査及び普及啓発活動 調査は専門家や地域住民の協力を得ながら通年で実施。地元の文化遺産に関する認知度を高めるため、普及啓発活動を随時開催。
4	伝統芸能保存及び継承 金助桜まつりでの伝統芸能披露
6	伝統芸能保存会会議において、各地区の現状等を把握し、今後の継続的な活動について検討。
10	多世代が集う憩い広場での伝統芸能発表会の開催 大口北小学校との交流会

■目標又は改善策に対する取組内容

町内に遺る文化遺産を対象とした普及啓発活動について、コロナ禍前にあたる平成 30 年度以前と比べると数自体は少ないが、町内で活動する各種団体と連携して進めることができた。

伝統芸能は、春及び秋の伝統芸能発表会、北小学校との連携事業を開催した。特に秋は小口城址公園ではなく、多世代が集う憩い広場という新しい会場で開催することができた。

■評価

春及び秋の伝統芸能発表会が開催できたのは、令和元年度以来のことであり、これまで練習自体も制限されてきた各地区の保存会にとって、久々に発表の場が設けられたことは保存会の活性化につながった。また、秋の伝統芸能発表会は、令和元年度まで小口城址公園で行われていたものを、地元中小口の有志の方々とともに、多世代が集う憩い広場に会場を移して開催できた。しかし、新しい会場での開催であったため、その利点及び課題が改めて確認できたので、次年度は地域や保存会の方々と協議を積み重ね、より充実したイベントとなるよう改善していかなければならない。

令和 5 年度 事業別行政経営計画書

所属名	歴史民俗資料館	予算科目 款-項-目(事業)	10-5-4-(4)
事業名	歴史民俗資料館運営事業		

■基礎情報

目的	先人の培ってきた過去の営みを現在に伝えるため、郷土「おおぐち」に関する事柄や美術分野等の展示を実施することにより、町民の知的欲求に応える。また、小中学校の見学受入れや資料貸出等により、学校教育に寄与する。		
事務内容	・ 年 4 回の企画展開催 ・ 常設展示室の管理 ・ 展示解説及び展示物に係る調査研究 ・ 文化財収蔵庫の管理		・ 収蔵品管理及び活用 ・ 小中学校等の見学受入れ ・ 博物館実習生の受入れ ・ 年報、展示図録等の発行
現在における経過又は課題	年 4 回開催している企画展のうち、家族連れを対象とした毎年恒例の春の企画展「端午の節句」及び冬の企画展「ひなまつり」は、令和 2 年度に中止となり、令和 3 年度及び 4 年度は新しい生活様式に対応した方法で開催した。今年度も新型コロナウイルスの状況を鑑みつつ、夏・秋の企画展も含め、今年度も町民が安心・安全に利用できるような方法を探りつつ実施していく。 文化財収蔵庫内の資料及び施設自体の活用を進める。収蔵品については、小中学校及び高齢者施設等が積極的に利用できるよう努める。		
令和 5 年度の目標又は改善策	春及び冬の企画展は、新しい生活様式に対応しつつ実施する。夏及び秋の企画展は、夏休みの小中学生を対象に町内の文化遺産を紹介する内容や、町内の歴史に関するテーマを中心に開催する。 文化財収蔵庫お及び収蔵品の活用は、年 1 回の施設開放及び月 1 回の「オレンジカフェ・大口」への資料貸与を実施し、教育及び福祉関係機関と連携を進める。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系		基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
		基本政策	第 1 節	生涯学習の推進				
成果 指標	所蔵資料点数							
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値	
12,387 点	12,898 点	13,471 点	13,838 点	14,159 点	14,333 点	13,600 点	13,800 点	

成果指標	入館者数						
H26 実績値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R7 目標値
15,167 人	9,528 人	776 人	1,506 人	5,365 人	7,470 人	19,000 人	20,000 人

■3年間の目標

目 標	来館者の安心・安全を確保した展示方法の実施					
	項 目（単位）	R3 実績	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R7 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R6 年度	新しい生活様式に対応した展示及び関連イベントの実施
R7 年度	コロナ禍前の状況と同水準のイベント開催

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	春の企画展開催（6月上旬まで）
7	夏の企画展開催（9月上旬まで）
8	博物館実習受入れ
9	中学生職場体験受入れ
10	秋の企画展開催（12月中旬まで）
11	ふれあいまつりで文化財収蔵庫一日開放
1	冬の企画展開催（3月中旬まで）
	毎月、大口町社会福祉協議会が開催する「オレンジカフェ・大口」に収蔵品貸出 小中学校、高齢者施設及び町内各種団体に対し、文化財収蔵庫の団体見学受入れ及び収蔵品貸出

■目標又は改善策に対する取組内容

資料館では、年4回の企画展を実施した。春は、端午の節句をテーマに開催し、陣羽織や兜を着て写真撮影を自由に行うことができるスペースを設けた。夏はラジオを取り上げ、新旧のラジオを紹介するとともに、子どもが実際にラジオに触れ、チューニングを体験できるコーナーを設置した。秋はゲームを題材とし、アナログからデジタルまでの推移を資料とともに紹介した。冬はひなまつりをテーマとし、17段の大ひな階段を筆頭に、様々な雛人形を展示した。

この他、収蔵品の活用として、大口町社会福祉協議会主催の「オレンジカフェ・大口」での資料貸与や、ふれあいまつりに合わせ、収蔵庫の一日開放を行った。

■評価

昨年度は企画展を年4回開催したものの、新型コロナウイルスの影響もあり、来館者数が伸びなかったが、今年度は令和元年度以前の水準といかないまでも、来館者数が増加しつつある。

このまま次年度も来館者が増加するよう、子どもや家族連れを対象とした町にまつわる内容の企画展を開催し続けていく。

文化財収蔵庫及び収蔵品の活用も、昨年度より着実に実績は増えているため、教育及び福祉関係機関との連携を維持発展できるように努めていかなければならない。